

佐久地域の横断的な課題（案）

資料 1-2

【令和7年度】

(◎：新規事業、○：従前事業の拡充、△：従前事業の継続)

R7横断的な課題	R7施策の柱	具体的な事業概要（下線：地域振興推進費を活用）
「晴れやかな空の下、心晴れやかに暮らす」確かな生活基盤づくり	1 医療・介護・生活支援の更なる充実と教育の強化 2 広域的な公共交通施策の推進と暮らしを守るインフラの整備 3 豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素 4 地域に息づく文化の承継	△食育の推進と身体活動・運動習慣の普及のため、関係機関・団体等による連携会議の開催
		△ボールウォーキング体験講座や普及啓発フォーラム開催等による、健康づくり・フレイル予防に向けた取組
		◎健康ボランティアを養成し、住民主体の地域での健康づくり活動を促進
		○地元企業と医療機関等の連携による新たな製品の試作開発と販路開拓支援、プレメディカルケアに関わる試作開発品の実証やニーズ調査の実施
		○国際福祉機器展への出展によるプレメディカルケア産業関連製品のPR
		△高校再編を契機とする新たな学びの推進に向けた支援
		○長野県地域公共交通計画改定に向けた取組
		○小海線の利用促進に向けた、公共交通機関を利用して楽しむアウトドアアクティビティの推進
		△佐久地域の医療体制整備
		△農地、農業用施設、林道施設、道路、河川等の整備
		△土砂災害・治山対策の推進
		△遊水地整備に伴う農地の調整と治水まちづくりの推進
		◎ニホンジカ等有害鳥獣の狩猟やジビエに関する広報啓発イベントの開催
		◎温暖化社会の現状と適応策、ウッドチェンジに関する体験型研修会の開催
「佐久の産業は粒ぞろい」未来につなげる産業づくり	1 農林水産業、商工業の振興 2 新たな価値観・行動を捉えた広域観光の推進	○佐久産農畜産物の地消地産の地域内流通体制を確立するため、農産物・ほ場見学会及び直売所研修会の開催
		○直売所出荷者と宿泊施設等のマッチング、直売所の販売リストのひな型の更新
		【再掲】○佐久地域内のパティスリーによる生食ブルーンを活用したスイーツスタンプラリーの開催
		【再掲】◎温暖化社会の現状と適応策、ウッドチェンジに関する体験型研修会の開催
		◎佐久地域の観光振興に向けて連携するためのワークショップの開催
		○東信州エリアにおける日本酒・ワインツーリズムを軸とした広域観光の推進に向けたPR事業や、若者向けの日本酒の開発に向けた大学生と酒蔵等による会議の開催
		【再掲】○小海線の利用促進に向けた、公共交通機関を利用して楽しむアウトドアアクティビティの推進
「教育が人を呼び込む」首都圏からの利便性と人を活かした地域づくり	1 移住・定住、つながり人口の増加に向けた取組の推進	○管内関係団体と連携し、地域の特色を活かした移住相談会の開催
		◎移住者を中心とした佐久地域の地域づくり団体等の新たなつながりや事業の創出を促進
		◎女性活躍や男性の育児参画に積極的な地元企業のガイドブックを作成し、域外に出た若者を中心に周知
浅間山の防災体制の強化	1 広域避難計画の策定	△市町村の広域避難計画の策定支援、浅間山火山防災協議会及び佐久広域連合と連携し、火山防災訓練への参加するとともに防災体制を整備
		△火山噴火活動の監視・観測体制を維持・強化するため、浅間山火山監視システムを改修
		△浅間山の特性及び地域との関連性を考慮し、佐久地域において必要な火山防災の啓発方法の検討
		△Webサイトを活用した情報発信
中部横断自動車道の整備促進	1 早期の全線開通に向けた連携強化 2 周辺道路網の調査及び整備	△山梨県等との連携を強化し、未整備区間である長坂JCT（仮称）から八千穂高原ICまでの建設促進のため、国への要望活動の推進
		△全線開通を見据えた、物流・貿易・企業誘致・観光などの分野での利用促進
		△中部横断自動車道の効果を最大限生かすため、道路網の調査及び整備

(参考)

地域の 特長と課題	<p>○健康づくり活動が活発で医療体制も充実しているが、高齢化が進み、健康寿命が必ずしも長くないことから、医療・介護・生活支援の更なる充実が必要。</p> <p>○工業系・IT系の学校が少なく、高校生は他圏域や県外に流出していることから、地域力を活かした個性的で、子どもから選ばれる教育環境を整備していく必要がある。</p> <p>○公共交通を民間事業者の独立採算により維持することは困難なことから、持続可能な公共交通システムの構築に向けた検討が必要。</p> <p>○小海線・しなの鉄道の沿線住民と観光客の移動手段を守るため、関係者が一体となって鉄道の利用促進に取り組むことが必要。</p> <p>○近年の激甚化・頻発化する災害を踏まえた風水害から暮らしを守る基幹インフラの整備が必要。</p> <p>○豊かな自然環境の保全や、地域の特性を活かした脱炭素に向けた取組が必要。</p> <p>○将来にわたって持続可能な農林業となるよう、今後を見据えた施策が必要。</p> <p>○デジタル化、脱炭素化、循環型経済への対応を強化し、ITやデザインといった新たな成長産業の創出・振興が必要。</p> <p>○自然環境を活かしたアウトドア・アクティビティの充実や豊かな農畜産物を活かした食事や地元産の日本酒・ワイン・ビール・ウイスキー等の魅力を発信し、ブランド力の向上が必要。</p> <p>○首都圏からの利便性を活かし、新幹線や高速バス、自家用車により多くの観光客が訪問することから、環境負荷の小さい二次交通の整備と、EVIに対応した観光地づくりが必要。</p> <p>○地域内に魅力ある小・中学校や幼稚園等が多く、県内外から人々を引き付けている地域性を活かし、子育て世代の移住者の更なる取り込みと、定住し続ける環境づくりが必要。</p> <p>○地方回帰の機運が高まる中、首都圏からの利便性を活かし、交流人口・関係人口を増加させる取り組みが必要。</p>
--------------	--